

令和5年度4月定例教育委員会議事録

【日時】

令和5年4月14日（金）

開会 午後1時30分

閉会 午後3時40分

【会場】

辰野町民会館 104 学習室

【出席者】

10名

（辰野町教育委員会）

教育長	宮澤 和徳
教育長代理	飯澤 隆
教育委員	垣内 由佳
教育委員	関 政彦
教育委員	萩原 多恵子

（事務局関係）

学びの支援課長	福島 永
学校支援課長	小澤 靖一
学校支援課長補佐	宮原 隆史
学校教育係長	翠川 俊一
教育総務係	中沢 大輔

【傍聴者】

0名

【次第】

1 議事

- (1) 【非公開】 指定校変更の承認について
- (2) 【非公開】 区域外就学の許可について
- (3) 【非公開】 準要保護の認定について

2 協議

- (1) 辰野町教育委員会事務局体制および今年度の事業・課題
- (2) 【非公開】 学校・保育園の様子及び運営上の諸課題
- (3) 川島小学校保護者との懇談会について
- (4) 新たな「小・中学校あり方検討委員会」について
- (5) R 5 学校生活におけるマスクの取り扱いについて

3 報告事項

- (1) R 5 児童生徒数・学級数、町費職員配置
- (2) 町校長会・教頭会役員構成
- (3) R 5 校長の思い・各学校の教育課程
- (4) 公民館講座
- (5) その他
 - ① R 5 教育委員会事務局年間行事予定

○開会

1 開会宣言

2 会期の決定

- ・会期については1日とする。全員異議なし。

3 議事録の承認

- ・承認。

4 宮澤教育長挨拶

こんにちは。

令和5年度がスタートして2週間程が経ちました。入学式には、各教育委員の皆さんには、教育委員会の告辞をおこなって頂きました。ありがとうございました。今年の入学式はどうだったでしょうか。また感想・ご意見を出して頂きたいと思います。

既に集団登校も終わって、通常の登校風景に戻ってきていますけれども、私は樋口から平出までの竜東線を通って中学校・西小の前を通って、子ども達の登校の様子を見て来るわけですが、今週から集団登校から通常の登校になって兄弟と思われる子達のお兄さんと2人の小さな子を見かけました。一人が通学帽子を被っている新入生と、2年生か3年生と思われる子達が竜東線の歩道を一列になっていて、先頭にそのお兄さんがいるのですが、ちょいちょいと後ろを振り返りながら、後ろの兄弟を気遣いながら登校してくる姿を今朝も見ました。微笑ましいなという感想を持ちました。こういった場面は、あちこちの小学校でも同じような事が展開されているのだろうと思います。

町内6小中学校、いずれも力強く新学期のスタートを切ることができました。あとでまた報告させて頂きたいと思います。丁度、1年前でありますけれども、辰野東小学校では年度末に学童利用者から集団感染が起きて、入学式翌日から二日間の臨時休業措置を執りました。辰野西小学校でも、3月31日に中央保育園児で陽性者が出て、そこから園児に拡大。それに伴って家庭内感染で兄弟に広がり、入学式ができるかという話を議論した事が今でも思い出されます。それから1年間が経ち、コロナもすっかり落ち着いてきていてありがたい事だと思っております。

5年度は昨日、校長会が行われまして、コロナ禍ではあるのだけれども、コロナ前の状態に戻していこうと確認致しました。ただコロナが完全に収束したわけではありませんので、コロナに気を付けながら、やっしていこうと確認致しました。

来週は全国学力学習状況調査、それから来週は辰中の3年生が奈良・京都へ就学旅行という大きな行事が控えています。

さて、今日の定例教育委員会では、5年度最初の教育委員会という事になります。

子育て応援課の設置によって、こども係とこども支援係がそちらに移管されて、事務局体制も変わりました。その確認だとか、議事では就学に係る内容、協議では川島小に係る保護者との懇談の件、それから新たな町内小中学校あり方検討委員会の立ち上げに係る件を協議して頂きたいと思います。それではよろしくお願いします。

5 議事

(1) 【非公開】 指定校変更の承認について

- ・ 翠川学校教育係長より説明。承認。

(2) 【非公開】 区域外就学の許可について

- ・ 翠川学校教育係長より説明。承認。

(3) 【非公開】 準要保護の認定について

- ・ 翠川学校教育係長より説明。承認。

6 協議

(1) 辰野町教育委員会事務局体制および今年度の事業・課題

- ・ 小澤学校支援課長、福島学びの支援課長より教育委員会事務局分担表を説明。
こども課から学校支援課へ名称変更。
こども係、こども支援係が子育て応援課へ移管。
教育総務係、学校教育係、学校DX推進係に係を分割。
生涯学習課から学びの支援課へ名称変更。業務は変更なし。
ウォーターパークあり方研究特命を新たに設置。

- ・ 宮澤教育長より教育委員会の基本姿勢を説明。

【基本的な政策】

○学校支援課

教育環境の整備。教育施設の整備。幼保小中高短大の連携。

学校DXの推進。

郷土を愛する心を育む体験教育の提供。

たつのEサミットの立ち上げ。

新たな小・中学校あり方検討委員会の立ち上げ。

○学びの支援課

総合基本計画に掲げられている地域づくりにつながる生涯学習の推進。

【遂行に当たって大切にしたい事】

社会が動き始めているので基本的にはコロナ前に戻していく。ただこの3年

間で社会も大きく変化し、人間の価値観も大きく変わっているので、4年前と同じ事はできないという部分が沢山ある。変えていかなくてはいけないところは大胆に変えていく。学校において、マスクは文科省が言っている「個人の判断」ではなく、「極力外しましょう」と一歩踏み込んでいく。

【具体的な施策の概要】

学校の関係の目標は昨年同様の「寄り添う」。

職員自身が「我が子も入れたくなる学校・学級を目指す」。

自己肯定感を高める指導、個性・特性に応じた学びを通じた、居場所づくり。

【今年度の主要施策】

- (1) 英語遊び。
- (2) 教科担任制。
- (3) 低位生の把握と具体的な支援体制。
- (4) I C T教育の環境整備。
- (5) 「たつこの学舎」の開設。
- (6) 外国籍児童生徒への一層の支援。
- (7) 川島小学校統合に向けて。
- (8) 新たな「町立小・中学校あり方検討委員会」の立ち上げ。
- (9) ヤングケアラーを見落とさない。
- (10) L G B T Q、S D G s 等に配慮した学校づくり。
- (11) 「学校支援主事」は「町の保健室」の学校版。
- (12) 「たつのEサミット」の再開催。
- (13) 町民企画講座の開設。
- (14) 文化活動の拠点としての町民会館の機能強化。
- (15) スポーツ協会・スポーツ推進委員と連携してスポーツ環境の提供。
- (16) 荒神山公園内施設の連携および活動。
- (17) 美術館のあり方。他施設との連携。
- (18) 町文化財の広報・啓発。
- (19) 町図書館の利用促進。

〈A委員〉

デジタル教科書というのは、どんな関係になっていますでしょうか。

〈宮澤教育長〉

今、使っている紙ベースの教科書にQRコードが付いていて、動画等を見ての学習ができます。

<B委員>

英語が全文デジタル教科書になるというような話がでていました。

<宮澤教育長>

そうなるかと思います。町内は紙ベースの教科書ですが、副教材としてデジタル教科書が整備されています。指導用の教科書はデジタルになっています。

<C委員>

先日、川島小学校の授業を見させてもらったら、昔とえらい違いがあって、驚いたのですけれども、QRコードを読み込むとお稽古の問題がすぐ出てくる事に驚きました。また昔の算数は白いノートを使っていたのが、今は算数の副教材のノートがあって、教科書の事が全部書いてあるのですね。そこに全部計算を書き込めばいいようになっていました。自分でノートを綺麗にとってまとめて作るのではなくて、もう整理されたノートになってしまっているのですね。ちょっと心配なのが文科省でよく言っている『主体的、対話的で深い学び』がちゃんとできるのかという事。お稽古はできるかもしれませんが、益々教え込みというかそういった学習になっていってしまうのではないかと心配で、自己肯定感の高い児童生徒がこういった学習で育つのかと心配になります。なんとか学校の先生方には教え込みの学習というかドリル学習みたいではなくて、自分達で課題を見つけて学んでいく学習というのを、当然全部ではなくてよいので、少なくとも一つくらいは筋が通っているものが欲しいなと思います。

<小澤学校支援課長>

去年、辰野中学校で食育の授業が研究材料になっていて、研究授業を私達も見に行きました。食育の授業を進めていくうえで、ICTの活用に参加された先生方達も驚かれています。今の学校では同時編集というものがあります。私達もワークショップで1枚の模造紙に自分の意見を書き込んだ紙を貼り付けますが、学校では自分のタブレットから自分の意見を書いて送るだけで、黒板に表示されるようになっていて、それを見ながら子ども達が意見を交わすといった授業がありました。先生達へ扱い方を知って頂く為に、ICT担当で研修をしているところでもあります。

<D委員>

町の文化財だとか、ここで設置される「たつのご学舎」や中間教室について、なかなか見に行く機会がないので、委員会の中で足を運んでみたいと思いますが、どうでしょうか。

〈宮澤教育長〉

ぜひ、そういった機会をこちらで考えたいと思います。

【今年度事業】

宮澤教育長より年間行事等予定表を説明。

(2) 【非公開】 学校・保育園の様子及び運営上の諸課題について

- ・宮澤教育長より説明。

資料として「学校の様子及び運営上の諸課題」、「4月校長会資料」を提示。

(3) 川島小学校保護者との懇談会について

- ・宮澤教育長より説明。

2年後の統合が決定したが、本年度に入学した5名を含む13名の学びは保障していくのと同時に、辰野西小学校へのスムーズな就学校移行をしていかななくてはならない。その趣旨で懇談会をもちたい。

スムーズな就学校移行に向けて、昨年度2回の交流学习（2学期の校内音楽会、3学期の半日交流活動）から良かった点と課題を整理して、今年度の交流活動の方向を示していきたい。

在籍児童については小学校卒業まで配慮するが、13名全員に同じ対応とはならない。現5年生以上は2年後に卒業となるが、現2～4年生（令和4年12月の統合についての議決前からの在籍児童）については小学校卒業まで、どの学校へ行っても全て町教育委員会で就学校と通学手段を保障する。12月議会決定後に川島小学校へ来た、現1年生は基本的に西小学校へ行っていただき、他校を希望する場合は保護者の責任となる旨を確認する。

時期としては、5月GW以降に懇談会を開催予定。地元川島区長はじめ3役の傍聴を認める予定。

(4) 新たな「小・中学校あり方検討委員会」について

- ・宮澤教育長より説明。

辰野町が公表している今後の人口推移をみると年々減少していく事が予想されており、これに伴って子どもも減っていく事が考えられる。またこの人口推移はコロナ前のものであり、コロナ禍で減少した出生者数は考慮されたものではない為、コロナが明けたとしても人口減少は避けられないものとなっている。小中学校の教育環境は学びの集団が小さくなり、人間関係が固定化され、多様な考えを基にした深い学びを実現する事が難しくなっていく。学級数が減れば、県費教

職員数が減少し、現在の学校配置では活気ある良好な教育環境を維持していく事が極めて困難になる。また一方で校舎の老朽化も顕在化しており、プールの改修や給食室の改修も急務になっている。

しかし、子ども達の学びの場である義務教育の質的充実は常に確保されていなければならないので、今のままでは難しく新たなあり方を検討していく必要があるという事で、「辰野町立小・中学校あり方検討委員会」を設置します。

諮問事項として、辰野町立小・中学校が魅力ある学びの場となる為に、以下の事を考えている。

(1) 望ましい教育環境のあり方（学びの適正規模、適正配置）

- ① 小・中学校の配置及び通学区に関する事項
- ② 辰野町の良さを活かした新たな教育課程のあり方に関する事項
- ③ 小・中学校と地域との連携のあり方に関する事項

(2) 就学前から一貫した支援・指導のあり方

- ① 保育園から小学校・中学校の連携のあり方に関する事項
- ② 多様化する児童生徒への支援・指導のあり方に関する事項

以上の事を考えており、これはまだ素案だが、内容については教育委員と検討していき、教育委員会として公表していきたいと思っている。

<E委員>

つい先日のコミュニティースクール運営委員会で地域の人達が学校を支えるのだと張り切っていて、とても頼もしいと思いました。子ども達も見守られながら自分の家まで歩いて帰れる。中学生は辰中一つですから、当然電車を使って行くのですけれども、中学が一つというのも当たり前で、地元には学校が無い事を悲観する事はありません。それはそれで辰野町内の広い範囲に友達ができて、子どもにとっては良い経験になっているかと思います。今の子育て世代はそれが初めてでして、過去をよく知る方々にとっては凄く大変な事が起きていると思っている、今の子育て世代は、自分達の時と比べても人数は減っていますが、これがノーマルと思ってやっているのも、統廃合となると大変なことになるのは川島小の件で経験しましたが、子育て世代としてはそういった気持ちも一方であります。

宮澤教育長

そうですね。幾つもの保育園があつて、複数の保育園から小学校に行つて、複数の小学校から中学校に行くのが理想だと思います。徐々に発達段階に合わせて友達の輪が広がっていくのが理想で、これを最初から一つの小学校にしてしまうというのは本当はとりたくない形です。一方で現実を見た時に、どういったスタイルの学校が辰野町に良いのか。辰野町は地域との結びつきが強いので簡単に一つの小学校にすればよ

いというものではないので、みんなで考えていきたい。前回のあり方検討委員会は丁度1年で終わりましたが、今回2年は必要だと思っています。前は学びの集団が10名という事もあり、1年で終わったが、今度は新たな学校スタイルを考えていかななくてはならないので到底1年では済まないと思います。住民の声を聴きながらあり方検討委員会でやっていかななくてはできないと思います。

< F 委員 >

教育長が言われる集合体が合わさっていくというのは、その通りだと思いますが、現実で見ると学校1校で足りてしまうという状況で、一つの単位が10名とした時に、一つのクラスが5人とかの学校が増えてしまうよりも、ある程度10人位にまとまったメリットというのもでてくると思う。10名を切って無理矢理学校を維持していくというのは、効率的でもないし、質の低下の心配もあります。遠くに小学校1校論というものもありつつ、現在の町内で良いと言われる地域の特性を活かした学校というのが1校になってしまうと無くなってしまいます。辰野町の特性を出すとしても各地域でそれぞれの特性があるので、辰野町としてまとめて一色にする事は無理だと思いますので、そうなってくると地元にある地区児童会が地域との連携をとる部分になるかと思いますが、そういったところを強めていかないと、お祭りだとか伝統行事とかも子ども達の繋がりがなくなってしまうので、学校の配置もあるが地元がどのように絡むか、地域の子ども達を育てていくのか考えなくてはならないと思います。

宮澤教育長

そこは一番の悩みでもあります。例えば中川村が町内2つの小学校と中学校を一つの学校にして1年生から9年生までの義務教育学校としますというのをあり方検討委員会で出しました。信濃町も県内で一番早く義務教育学校というのを打ち出して注目を浴びました。これは結局、学校を一緒にして終わりというものです。私は辰野の中ではこれでは駄目だと思っています。学校は一つにするのだけれども、地域コミュニティをどうするかという部分で、例えば中心というところで西小の場所に学校を置くと仮定した時に、東と南に校舎はあるけれども、ここを維持しながら地域コミュニティとの何かをやるというところまで踏み込んでいかななくてはならないと思っています。その子達が地元に戻った時にという部分をなんとか残したいと思っています。

< G 委員 >

最近では、PTAをやめてしまったという大胆な地域もありますが、親が地域に帰った時の繋がりというものがあれば、親のネットワークがなくてはいけないし、それを支援する区だとか本拠地が無いと、一旦そういったものが無くなってしまおうと地域のものがなにも無くなってしまおうのではないかと思います。

宮澤教育長

ここの議論をやる時には、学びの支援課が担当している子育て支援マスター部会も大きく変えなくてははいけないのです。いわゆる地区育成会の組織もそれに併せて変えていく。そこまで協議していかないと駄目だと思います。

<H委員>

川島小の統廃合になるという議論になった時に、心配していたのが地区から学校がなくなるという事は、地域にとっては大きな影響がでてきてしまう。今まで色々やっていた事が、無くなってしまいます。そこが心配でした。今も川島から西小に行っている10人程でも地区児童会というものができているのだけれども、区のあり方も変わってくると思いますし、子どもを中心に動いているところもありますので、そういったところも町を挙げて考えていかなくてははいけない大きな問題だと思います。丁寧に進めていかなくてははいけないと思います。

<I委員>

この間、辰中と平出の評議会でも中学1年生の名簿の管理の問題で、校長・教頭と担当の先生と地区理事さんと話をしたのですが、個人情報という事で揉めて、双方でよくわかってなくていけなかったのですが、いわゆる協議会で把握したいのは平出区に住んでいる中学生の名簿で実態を把握したいわけですが、これはどうしてかという、中学生も辰中生じゃない子が何人かいるので、その子らも含めて地区の催しや行事を、来る、来ないはあるのですが、そこに連絡はいくようにという事で名簿が必要だったのですが、辰中しかわからないという事で行き違いがあつていけなかったのですが、そういうような形で平出はやっていて、地域の行事の中でそういった括りが失われていて、その括りをしっかりと醸成していかないと、この問題に当たった時には間に合わないと思います。

小澤学校支援課長

一つハード的に心配なのが、南小学校は長寿命化の補助金を受けて、30年後を見据えた改修をしてあるので、それが小学校を一つにする場合には、荒神山のウォーターパークの様に、補助金を受けている期間は手を出せない事がネックにならないか危惧しています。

<J委員>

小学校を一つにとなった場合、南小の下にいい道路を開けて頂いたのですが、そこにお家を建てたいというお話が出るのですが、そこは農振法でできないと言われてし

まって、みんな結局お家を建てるのに宮木とかに引っ越しをしたり、町内に住んでくればまだ良いのですが、町外に出してしまうという人もいます。オリンパス辺りにお勤めの方はアパートに住んでいる方も多く、南小や羽北保育園に通っているのですが、拠点を決めたいという時に、新築で家を建てられるような土地が無いので、空き家はどうかと言われるのですが、やはり新築を望まれる方も多いため、地域の人口にも影響が出てくる課題だと思います。

宮澤教育長

今回、この文書をはじめて出させて頂きました。いずれにしても来週の町議選で新しい議員が決まって、6月の定例町議会の一般質問で、この事は話題になってくると思われますので、それに向けて教育委員会として説明できるように形を作っていくと思っております。どんなご意見でも良いので是非寄せて頂きたいと思っております。次回の5月教育委員会ではもう少し進んだお話ができればと思っております。検討委員会の具体的な諮問事項を考えていきたいと思っております。

小澤学校支援課長

中学校の校舎の問題もあります。60年経っていますので、小学校の統合をどうするのかという話に絡めて、中学校の校舎も考えていかなければならないと思っておりますので、義務教育学校という構想も出てくる可能性があるかもしれないと思っております。中学は60年以上経っているという事で、本当は建て替えないといけない状態で、大規模改修では手がつきません。尚且つ、川沿いという事もあり、防災面では条件があまり良いとは言えないので、小・中学校併せた構想になるかもしれないと思っております。教育委員会としても諮問は出しますが、検討委員会と教育委員会の意見があまりかけ離れてしまうとまとまらないと思っておりますので、諮問しながら教育委員会の考えをまとめていくとゴールが近くなるかと思っております。ある程度の終期を決めて結論を出して、着手していかなければならないと思っております。

(5) R5 学校生活におけるマスクの取り扱いについて

宮澤教育長より説明。

文科省は「個人の判断に任せる」としているが、辰野町では一步踏み込んで「マスクは外しましょう」としている。まだまだほとんどの先生、子どもが着用している状況。様々な事情もありますし、この3年間つける事が当たり前だったので、半年以上時間はかかるかと思っております。民間調査の結果で、「顔に自信がない」「恥ずかしい」「さらしたくない」という意見が小・中・高校生がマスクを外すことに抵抗がある理由として挙げていた事に衝撃を受けた為、一步踏み込んだ声掛けをしていく事にした。

7 報告事項

(1) 令和5年度児童生徒数・学級数、町費職員配置

- ・宮澤教育長より説明。

各学校の児童生徒数と栄養士の配置、学童クラブ職員の配置、英語あそび職員の配置を確認。

(2) 町校長会・教頭会役員構成

- ・宮澤教育長より説明。

校長・教頭の各種会議での役割を確認。

(3) R5校長の思い・各学校の教育課程

次回

(4) 公民館講座

- ・福島学びの支援課長より公民館講座の内容を説明。

(5) その他

① R5教育委員会事務局年間行事予定

- ・宮澤教育長より説明。

8 閉会

上記は、令和5年4月14日開会の辰野町教育委員会の会議録であり、正確と認め署名する。

令和5年4月14日

教育長

教育長職務代理

教育委員

教育委員

教育委員